

鳥取県の政策に関する県民意識調査の結果について

令和7年10月6日
県民課

「輝く鳥取創造総合戦略」に掲げる政策をはじめ、県政全般の満足度などについて県民にアンケートする「鳥取県の政策に関する県民意識調査」(第10回)を実施しましたので、その結果について報告します。

1 調査概要

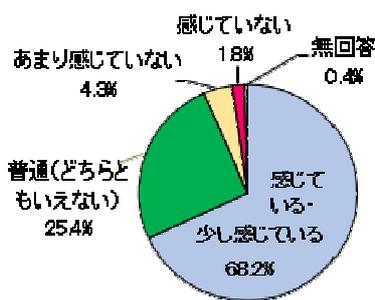
- (1) 目的 県民の関心や意向、要望等の意識を把握するとともに、継続調査をすることで、その意識の変化を把握し、今後の県政推進の基礎資料として活用する。
- (2) 調査対象 県内在住の18歳以上75歳未満の者3,000名(住民基本台帳に基づく無作為抽出法)
- (3) 調査方法 郵送(回答は調査票の返送又は電子申請サービスによる回答のいずれかを選択)
- (4) 調査期間 令和7年6月26日から8月20日まで
- (5) 回答数 1,596名(1,596/3,000名 回答率:53.2%(令和6年度比1.4ポイント減少))

2 結果概要

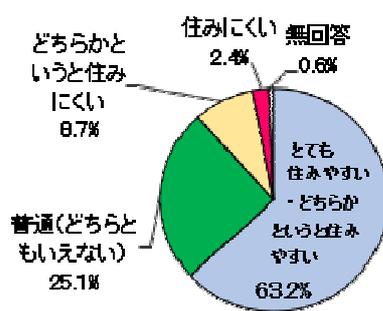
I 鳥取県の住みやすさ

- ①「鳥取県に対しての愛着や誇り」には、68.2%の人が「(愛着や誇りを)感じている・少し感じている」と回答し、「今暮らしている地域の住みやすさ」には、63.2%の人が「とても住みやすい・どちらかという住みやすい」と回答した。いずれも高い水準ではあるものの、令和2年度以降やや減少傾向にある。
- ②「鳥取県の暮らしに関してどう思うか」10項目について聞いたところ、「そう思う」との回答は「豊かな自然環境に恵まれている」が90.4%と10年連続で最も高く、次いで「地域の治安が良いと感じている」が65.1%であった。
- ③鳥取県に暮らしていて、どの程度幸せか(10段階評価、10が「とても幸せ」)を聞いたところ、「5」(普通)が27.3%、次いで「8」が20.9%で、「5」以上の回答は89.4%と全体の約9割を占め、前年度(90.4%)に引き続き高い割合となった。

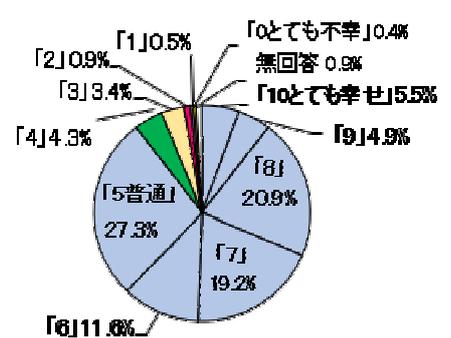
鳥取県に対して愛着や誇りを感じている



今暮らしている地域の住みやすさ



鳥取県に暮らしていて、どの程度幸せか



II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度

- (1) 鳥取県が実施している施策等に関し、①～③のテーマごとに満足度(5段階)及び今後の優先度(重要度が高い取組を3つ選択)について質問した。

①豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる

7つの取組について聞いたところ、満足度(「満足」と「やや満足」の計。以下同じ。)は「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が38.6%と最も高く、「文化・アートのまちづくりの取組」については29.5%と前年度(23.5%)と比較し6.0ポイント増加した。今後優先すべき項目は「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」が64.3%と最も高く、次いで「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が62.4%であった。

②人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む

7つの取組について聞いたところ、満足度は「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」が26.3%と最も高く、今後優先すべき項目は「若い力が輝く協働のまちづくりの取組」が62.0%と最も高かった。

③幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ

6つの取組について聞いたところ、満足度は、「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」が18.9%と最も高く、今後優先すべき項目は「県内産業の持続的発展をめざす取組」が56.5%と最も高かった。

(2) 男女共同参画社会づくり

①男女に関する役割などについて

8つの項目について聞いたところ、「そう思う（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の計。以下同じ。）」と回答した人は、「現実として家事が女性の役割となっていると思う」「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」がいずれも約8割、「現実として介護が女性の役割となっていると思う」は約7割であった。

②男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策

8つの施策を提示したところ、「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」が60.4%と7年連続で最も高かった。

Ⅲ 重点施策への関心・認識 性別に関するアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）について

①性別に関するアンコンシャス・バイアスについてどう思うか

「女性のリーダーが増えることは社会にとってよいことだ」について、「そう思う」と回答した人が71.4%と最も高く、次いで「家事・育児は、やはり女性が向いていると思う」が46.8%であった。

②自身に性別による役割分担意識があると思うか

「ある」が51.0%、「ない」が27.1%であった。

③性別役割分担意識は誰または何からの影響か

「家族（親、きょうだい、パートナー）や友人、知人」が76.7%と最も高く、次いで「職場」が33.6%であった。

④性別による生きづらさ（「暮らしづらさ」、「働きづらさ」、「仕事と家庭の両立しづらさ」など）を感じたことがあるか

「ある」が27.2%、「ない」が45.0%であった。

⑤どうすれば性別による生きづらさ（「暮らしづらさ」、「働きづらさ」、「仕事と家庭の両立しづらさ」など）が解消されると思うか

「家庭と仕事を両立しやすい環境」が61.9%と最も高く、次いで「性別に関係なく、自分の能力や個性を最大限に発揮できる社会を目指す意識づくり」が57.5%、「『男性がすべき、女性がすべき』といった性別役割分担意識に基づく慣習やしきたりの見直し」が53.2%であった。

3 今後の活用

アンケート結果は、庁内各課と共有し、各種会議のほか、今後の施策の立案や評価・見直し等の過程において基礎資料として活用する。